

新年のご挨拶



町より



肝付町長 永野 和行

新年明けましておめでとうございます。町民の皆様には、清々しく新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。旧年中は、町政の運営に対しご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、2月の岩手県・大船渡市山林火災や8月の九州豪雨など、大規模な自然災害が相次ぎました。このような災害を踏まえ、町では相互扶助の精神で、銀河連邦友好都市である大船渡市へ見舞金を贈り、九州豪雨では霧島市へ給水車を派遣するなど被災地に寄り添う支援を行ってまいりました。また、11月には波見地区で南海トラフ地震を想定した津波避難訓練を行うなど、地域の防災意識向上にも努めて

いるところです。

肝付町は合併から20年の節目を迎えました。合併当初1万8000人だった人口は現在1万3256人となり、2050年には7500人に減少すると推計されています。この現状を打破すべく、「ピンチをチャンスに」の言葉を胸に、外貨稼ぎ、雇用を生み出す仕組みづくりとして、地域商社を設立し、農畜産物・海産物のプラットフォームを図っています。

また、地域の公共交通を維持すべく、高齢者の移動支援策として開始した「おでかけタクシー」は、今や約1300人が通院や買い物などを利用いただいております。今後も人口減少抑制に向けた政策に取り組み、町民の

皆さんのが安心して暮らせる環境を整備してまいります。

そして、肝付町はロケットのまちであり、ロケットと共に歩んでまいりました。内之浦宇宙空間観測所ではイプシリオンSロケットの打ち上げが予定されており、年間3~4基の実施が実現すれば観光や交流人口の増加が期待されます。そのためにも、「宇宙産業に関わる人材育成に関する包括連携協定」を締結した県内外の大学などと連携し、宇宙人材育成の拠点化を進め、宇宙関連教育の発展を図つて、夢や希望を持てるまちづくりに邁進してまいります。

本年が皆様にとりまして希望に満ちた一年となりますよう心よりお祈り申し上げます。

議会より



肝付町議会 議長 有留 智哉

新年あけましておめでとうございます。

町民の皆様には、健やかに新春をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。また、日頃より肝付町議会の活動並びに町政全般に対し、深いご理解と温かいご協力を賜っておりますことに、議会を代表し厚く御礼申し上げます。

さて、昨年は内之浦町と高山町が合併し、肝付町が誕生してから二十年という大きな節目の年を迎えるました。この二十年間、社会情勢や生活環境は大きく変化し、時代は確実に前へと進んでまいりました。二十年という歳月は、人に例えれば二十歳を迎える、自立への一步を踏み出す時期にあたります。

皆様は、この二十年の歩みをどのように振り返られるで

しょうか。

肝付町もまた、町民の皆様に支えられながら、多くの経験と知恵を積み重ねてきた二十年であったと感じております。

一方で、時代がどれほど進もうとも、守るべきもの、そして大切にしていかなければならぬものは変わりません。地域を受け継がれてきた歴史や文化、豊かな自然、そして人と人とのつながりは、肝付町の根幹を成すものです。これらのかけがえのない財産を、次の世代へどのように引き継いでいくのか。それは、今を生きる私たち一人ひとりに課せられた大切な責任であります。

現在、物価高騰の長期化や少子高齢化、人口減少など、町を取り巻く環境は依然とし

て厳しい状況にあります。町議会といたしましては、皆様の声を真摯に受け止め、生活支援や地域振興、防災対策などについて、引き続き議論を重ねてまいります。

本年を新たな出発点と捉え、時代の変化に的確に対応するとともに、守るべき価値を大切にしながら、「開かれた議会」「信頼される議会」を目指し、町民に寄り添った議会活動に全力で取り組んでまいります。

結びに、町民の皆様にとりまして本年が希望に満ちた実り多い一年となりますこと、そして肝付町がこれからも力強く、住みやすい町として歩み続けることを心より祈念申し上げ、新年のご挨拶いたします。



謹賀新年



教育委員会より



新年明けましておめでとうございます。

昨年は、本町の学校教育、生涯学習にご支援いただき誠にありがとうございました。お陰様で、本町の教育は次のステージに向け着実に前進しております。

令和7年度から本町の教育理念を「承継創造」とし、「個別最適な学びと協働的な学びの創造」「歴史・伝統・自然・記憶の承継」を柱に、学校教育、生涯学習を進めて参りました。学校教育では、挨拶などの生活指導を基盤に、個別の学びに対応したA-I教材(キュビナ)の全小中義務教育学校への導入、宇宙教材や生成AI実証事業(TBSとの連携)、特別支援教材リタリコなどをモデル校で導入するなど先進的な取り組みを進めました。

木村政文

肝付町教育委員会
教育長

また、生涯学習では、長寿大学をより一層充実したニアカレッジの開講、誰もが参加しやすくなったスポーツフェスタや町総合文化祭の開催、子どもゲーム大会などの実施、国指定天然記念物「塚崎のクス」周辺整備、さらに伝統文化・芸能の承継などを進めました。

さて、本町の教育のキーワードは「イノベーション」です。これは、単なる発明ではなく「生み出された技術を社会に広め、価値を創造すること」を目指します。教育にイノベーションを起こすには、イノベーター(革新者や新しいものを生み出す人)を育てなければなりません。これは、21世紀に求められる教育の肝であり、本町の教育にも必要なことです。

知識は必要ですが、これま自分が知っていることで何がやれるのか」を大切にすることで、学校教育が生涯学習にも繋がるシームレスな教育を実現できればと思っています。承継創造の理念のもと、「好奇心とチャレンジ精神に満ち、自分の頭で考え、枠にとらわれない教育」を通して、一人でも多くのイノベーターを育てる教育を目指してまいりますので、よろしくお願ひいたします。

での学校教育では世の中の急激な変化に対応しきれなくなっています。知識を詰め込むだけでは、子どもたちは試験にパスする方法は身に付いても、学習意欲や応用の効くスキルを身に付けることが難しい現状があります。

令和8年の本町の教育は、自分は何を知っているかよりも、自分が知っていることで何がやれるのか」を大切にすることで、学校教育が生涯学習にも繋がるシームレスな教育を実現できればと思っています。承継創造の理念のもと、「好奇心とチャレンジ精神に満ち、自分の頭で考え、枠にとらわれない教育」を通して、一人でも多くのイノベーターを育てる教育を目指してまいりますので、よろしくお願ひいたします。

町立病院より



新年あけましておめでとうございます。

日頃より肝付町立病院の運営にご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

私たちの病院は、町民の皆さまにとって「困ったときに必ず頼れる場所」でありたいと考えています。体調が少し気になるときや、どこを受診すればよいか迷ったときでも、まずは当院にご相談いただければと思います。今年もその思いを大切にしながら、安心して受診できる病院づくりに努めてまいります。

医療については、365日、急患の方に対して24時間対応いたします。風邪や生活習慣病などの身近な病気をしっかりと対応いたします。

院長
肝付町立病院
菰方 輝夫

り診ることはもちろん、内視鏡や、CT超音波などの検査も町内で受けられるよう体制を整えています。大きな病院で治療を終えた後、すぐに自宅に戻るのが不安な方には、当院で少し体調を整えてから帰っていただくような支援も行っています。また、必要なときは、最適な病院へ速やかに紹介し、安心して治療が受けられるようお手伝いいたします。

病院に来ることが難しい方には、居宅や介護施設への訪問診療を広げています。ご家族の介護負担を少しでも軽くできるよう、一時的な患者さんの入院も続けてまいります。診療科は、内科、外科、総合診療、放射線診断、循環器科、整形外科、眼科、もの

肝付町の医療は、医療機関だけではなく、いろいろな職種の方々や地域の皆さま一人ひとりのお力があつてこそ成り立っています。今年も皆さまと共に、安心して暮らせる町をつくっていかなければと思っています。

本年もどうぞよろしくお願ひいたします。